記念講演

# 21世紀の幾つかの予想

本日の集まりにお招きをいただき、感謝申しあげます。長い間、私はイギリスで協同組合運動と共同所有運動とにかかわって来ました。そして、協同組合方式が経済に果たす役割が今日よりももっと大きくなるべきだと感じております。

21世紀の前半に、経済の多くの発展が、仕事の性格、その組み立てられ方、それに対する対応に大きな影響を与えるでしょう。そしてその影響の一つは、協同組合運動の重要性の増大であると信じます。

このような発展は次のようなことを含みます。

＊単一世界経済がここに存在するということ、そして、グローバリゼイションの現在の形は全く耐え難いものであるということの認識

＊経済民主主義の一層の強調、そして政治的民主主義の不十分さの認識

＊従属経済に対して自立経済の一層の強調——国家、国家の中の地域、市や町、地域社会、人々、そして家計に対し

＊天然資源と環境の保全の一層の強調

＊女性による伝統的労働の価値と、伝統的男性バイアスの経済の減少のニーズの一層の認識

## 歴史的背景

労働の歴史は、より大きな自由と平等への発展の歴史であります。

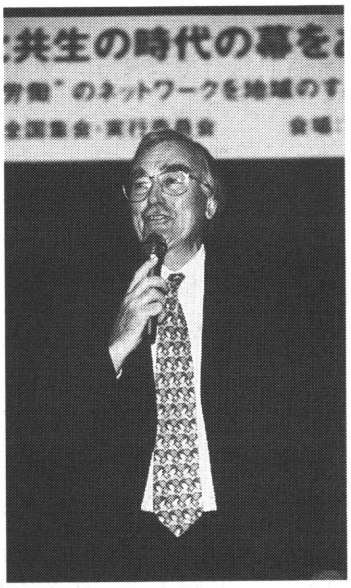
例えば古代ヨーロッパでは、ギリシャやローマのように、そしてまた、その後の幾つかの社会でも、殆どの人々は奴隷として労働をしてきました。社会の労働は、優位者と従属階級—主人と奴隷を基礎として組織されて来ました。そして中世封建制度下のヨーロッパでは、ほとんどの人々は、コモン・ピープルと呼ばれていますが、農奴として働かねばならなかった。社会の労働は、依然として優位者と従属階級ー領園主と農奴を基礎に組織されていました。現代社会では、ほとんどの人々は被雇用者として働いて来ました。社会の労働は依然として優位者と従属階級—雇用者と被雇用者の基礎のうえに組立てられています。

しかし、それぞれの段階で、少なくとも理論上では、労働関係はより自由に、より平等になって来ました。

この社会発展のパターンは、ヨーロッパおよびヨーロッパ・アメリカの歴史に限ったことではありません。しかし、より大きな自由

# 新しい働き方　21世紀へ

ジェイムス・ロバートソン
翻訳：大谷 正夫（協同総研）



と平等への、長期にわたる世界的潮流にも拘わらず、経済思考の主流をなす考え方は、いまだ殆どの人々は、雇用者に対する被雇用者という、優位者に従属者として働かねばならないということであります。

人々は、彼ら自身がもつ優先権と価値観に従い、自身の意志で選択をし、彼らのため、そして互いのために働く機会をもつことが予期されてはいないのです。

実際に、今日のアメリカやイギリスなどでは、社会政策の特徴として、例えばシングルの親に対し、雇用者が職を与えることを強制するような傾向も見られます。

適切な労働とは、従来型の仕事であるとの考えはいつまで続くのでしょうか。その結果、満足できる仕事を得られない人々は、不安定で、不幸で、恨みがちになります。。しかし、すべての人に従来型の仕事で、完全雇用が再び達成できるのでしょうか。

しかし多くの国で、良い生計をたてられる仕事を誰でもが得られるという意味で、完全雇用は存在しませんでした。例えばインドのような国で、訪問者には明らかなことですが、全人口に対し、どんな社会政策も、人並みな生計を与えるための仕事を創造することは恐らく出来ないと思えることです。ごく最近まで完全雇用が実現可能な目標ともみえたヨーロッパ、北アメリカ、日本、そして他の富裕な工業国でさえも、グローバル化した経済の増大する激しい競争にもより、雇用者が全ての人々に仕事を提供することができるかが疑問視されています。これは、政府の雇用統計が、誤解を招くように、バラ色に描かれているアメリカやイギリスのアングロサクソン経済に当てはまることですし、ヨーロッパ大陸や日本のように、伝統的に労働市場の弾力性のないところにも当てはまります。

私達は恐らく、労働の歴史の新しい段階ーポスト雇用時代の始まりーに近づいているのでしょうか。

## 労働の各種

通常の私的、公的セクターで雇用者のために被雇用者により行われる労働以外に、どんな価値のある労働があるでしょう。次のようなものがあります。

＊自営
＊協同組合やコミュニティ企業で働くこと。そしてその運営とマネージメントについての決定に参加すること
＊ビジネス組織や政府組織でないところでのボランティア活動ー第三セクター
＊無報酬の個人的有用労働—家事、子育て、親戚や友人や近隣のため

私の、将来の労働（Fuure Work）という本のなかで、それらを、自身の労働（ownwork）と呼びました。私は21世紀は、このような労働が、経済や社会において成長し続ける時期であると予見をしています。労働者にとって重要なことですが、社会的有用な意味をもつ労働が、殆どの人々の生活の中心であり続けると、個人的には信じております。

しかし私達は、従来型の労働からownworkに継続的に向かいつつあることを期待するべきであります。ある思想家たちは、労働というコンセプトから、人々の生活のために中心（センター）を提供する活動というコンセプトへの、シフトを求めています。

自身の選択による労働と生産的余暇の区別が、段々と曖昧になってくることに驚いてはいけません。芸術家や、家の修理にドゥ・イット・ユアセルフの労働をする人や、庭で食料を栽培する人や、意識的に子供と一緒にいる時間をつくる両親などには、それは既に曖昧なものとなっています。

このように述べても、労働が存在しなくなると言おうとしているのではありません。雇用は一切消滅することはありません。全くありません。しかし、経済や社会の政策作成者は、価値のある労働は、雇用者のもとで単に得られた労働以上のものであることを、認識すべきでありましょう。新しい政策では、そのような価値ある仕事を行う人々が、生計や社会的位置づけや自尊心を保証する必要があります。

## 二つの側面からのアプローチ（A twin-track approach）

政策に関して、二つの側面からのアプローチが今後必要となるでしょう。

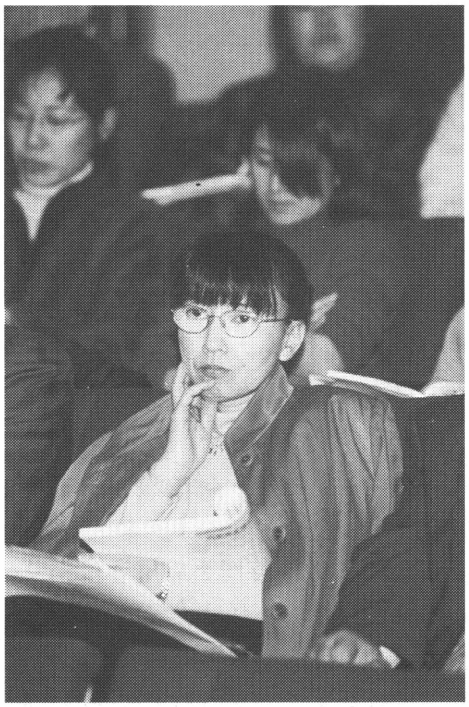
最初に、従来型の仕事を欲する人々には、それを確保するための方法が引き続き考えられねばなりません。即ち、仕事の供給をし続け、多くの人々を、それに必要な技術を訓練することを保証する、有効的な政策を採用しなければなりません。これはオーソドックスな主流をなす政策へのアプローチです。それはグローバル経済の競争上のニーズに適応し続けることを伴います。なぜなら、それは非常に変化するからなのです。この変化は、わけても環境がより持続的とななることを含むのです

二番目に、他の形式による労働を奨励して、仕事への要求を減少させることを目指すべです。私達は、多くの人々が、彼ら自身のための、有用な報酬のある、または、報酬のない労働を組織できるようにすべきです。そして、彼らが個人としても、あるいは協同組合社会のメンバーとしても、彼らの労働が彼ら自身のものと感じられるようにしなければなりません。このようにして、21世紀の社会では、今日よりも、雇用者を軸としたものはより少なくなり、人々を中心としたものがより多くなるでしょう。市民は雇用者に頼り、仕事を得て生計をたてる事を、今日ほどしなくなる

でしょう。

これらの2点は、21世紀の労働は、2つの方法でグローバル経済に適応しなければならないことを意味しています。先ず、労働者たちが、競争的なグローバル経済の舞台で成功をするようにしなければならないし、二つ目には、地域の自営そして協同組合の労働に携わり、グローバル経済の競争のプレッシャーや不安定さから、彼らや家族、そして地域を守ることを、それ以外の人々に保証しなければならないということです。

この2番目の21世紀の労働の局面では、各レベルにおいて、より大きな経済的自立と輸入代替を鼓舞することを必要としています。国の段階では輸入の要求を減少させることを意味します。このことは、輸入代金支払いの外貨を稼ぐための輸出を減らすことを可能にします。同様に、市や地域、家族の段階では、地域のニーズの大部分は地域でみたすという挑戦なのです。このことにより、人々が雇用者や、他地域からの供給者からの商品やサービスに、辛くも頼っている労働を少なくさせるのです。



## ゲームの採点方式の変更

明日の二回目のスピーチで、共通の資源の価値の共有への、新しいアプローチの必要性について、さらに述べるつもりです。これは“経済生活の転換”において、社会的、環境的に持続可能にするのに重要な部分となるのです。今は少しだけ触れておきます。

共通の資源や価値とは、私は、全体として自然や社会により造られた資源や価値のことで、それらを使用し所有する、個人や組織の企業や、労働や技術によらないものを指しています。例えば

＊公害や廃棄物を吸収する環境の包容力
＊用地としての土地の価値
＊採出される前の石油、ガス、石炭その他のエネルギー資源などです。

提案は、これらの共通資源を使用する個人や会社への税のシフトで、収入や稼いだ利益そして有用な商品やサービスへの付加価値に対してではないことです。

これに関連した一つの可能性は、これら共通資源の使用の税金から得た中から、市民個人個人に“市民収入”として分配することです。これは現存する多くの福祉給付に代わるものであります。これは、共通資源の価値を、公正に分担する全ての市民の権利を認めることになるのです。

## 労働の含意

私達はこの税の移転と市民の収入の導入を、経済のゲームの採点方式の変更と考えることができます。これは新しい社会契約を支えるものです。それによって、基本的な経済での投入の価値は、公平に全ての市民に分けられ、きつい労働や技術、企業も十分に報いられることになるのです。

特に、エネルギーのコストを上げることにより、労働者をエネルギー集中と資本集中の機構に代替しようとするする、企業の現在の動機を少なくするのです。したがって、人々が仕事を得るのが容易になるのです。同時に、市民の収入が、人々が有用な無償労働に携わり、フルタイムの有償労働につくことなく、生活を楽しむことを容易にするのです。

エネルギーのコストアップは輸送のコストも引き上げます。より高い輸送コストは、地域での消費には、地域で商品を生産することに、金融的にも魅力が生まれるのです。

このことにより、また追加的に地域での労働を創造するのです。

地域の社会的、経済的開発の成功は、労働の将来にとって決定的なものなのです。それは地域の失業者が未利用の地域資源を使い、満たされていない地域のニーズにこたえるということだけではなく、環境的に、より持続的な発展と密接に関連しているのです。

それは、1992年のリオ・デ・ジャネイロでの地球サミットに引き続く、多くの国の地域的アジェンダ21のイニシャティブをも含んでいます。

地域の、政府やビジネスそしてNGOのリーダーたちは、次のような体系的な研究を支援する必要があります。

＊地域の消費のために必要とされる、食料とレネルギーのような主要産物のかなりの部分を、地域で生産することが可能となる方法

＊地域の廃棄物が地域の再利用のため、地域でリサイクルされることが可能な方法

＊地域の労働で、有用な地域の資源を提供することが可能な方法

中央、地方の政府は、地域開発銀行やクレジット・ユニオンなどの、新しい地域経済の制度を促進する必要があります。地域交換取引システム（Letsystem）や同様の試みは、そのメンバーに、通常の通貨と並行して、新しい交換の方法を提供しています。この方法により彼らは、お互いにものやサービスを交換することが出来るのです。

この分野では経験と情報が、過去数年間に急速に蓄積されて来ましたー日本のことは知っております。そしてヨーロッパで、アメリカ、カナダそしてオーストラリアやニュージーランドなどにおいてです。

## 男性の労働と女性の労働

工業化時代以前の農民社会では、男も女も家の周りや近隣で働き、なすべき仕事を分担してやって来ました。現代社会の発展とともに、男女の労働の分かれ目が、より広がって来ました。男は、報酬のある労働の殆どをするようになりました。それはますます家から離れたところで、労働時間を雇用者に売り、労働をして来ました。それは、雇用者の利益のため、雇用者の目的や利害関係のための労働であり、労働をする人々の利害関係のため

ではなかったのです。時の経過とともに、男の労働は、家庭や近隣で働く女性の無償労働よりも高い地位を得るようになりました。

これをいま客観的に見てみると、産業社会で、厳しい労働集約型の女性の労働が、非人間的な男性の労働よりも低い地位を与えられたのは不思議に思われます。

子供を生み、面倒をみ育て上げ、家族のその他のものの世話をし、家計を管理し、近隣とコミュニティをつくる "社会の接着剤" となることは非常に重要なことなのです。

工場でものをあちこちと動かし、事務所で文書類をいじくり回し、大学や研究所であれこれと考えを巡らす男性の労働よりも、はるかに女性の労働の方が重要であると言うものもいるのです。

勿論、殆どの国において、過去の半世紀あるいはそれ以前に、男性と女性の平等は大きく発展して来ました。したがって、女性は有償経済（正式の）の労働で、男性と協力したり競争する、平等の機会を今や享受しているのです。しかし、女性には依然として、家計や家族の面倒をみるという、無償労働の大きな責任の分担が、背負わされているのです。

このことは、女性は男性に比べ、有償労働には、より少ない時間とエネルギーとで従事せざるを得ず、キャリアにおいて不利な立場を続けざるを得ないのです。それはまた、家や家族や近隣のための基礎的な労働が、雇用者のための有償労働に比べ、重要ではないと相変わらず見なされていることを意味しています。

従来の経済学者は、家庭を労働の現場（workplace）とは見なしては来ませんでした。

そこでは多くの基本的な労働がなされているにも拘わらずです。
従来の経済学者は、そのような労働をする人々を"経済的に活動"しているとも、"労働現場のメンバー"とは見なしては来ませんでした。従来の経済学者はそのような無償労働をする人々を、有償労働をする人々に経済的に頼る人々と見なして来ました。彼らは家計と家族を賄う、生存と暮らしのための基本的な無償労働があって、初めて有償労働が可能となるということを忘れているのです。何故なら彼らは正規の経済が生み出すもの—生産高、利益、経済成長率、仕事の数、税収入などを計量化し、それらを価値あるものとみなして来たのです。しかし、彼らは家庭や近隣での無償労働を計量出来なかったので、それらは価値のないものと考えて来ました。

ここで貨幣の問題に戻ることになります。人はどのようにして貨幣を得るのでしょうか。人々はそのため雇用者に頼らざるを得ないのでしょうか。前に述べた税の変更と還付のセットの仕組みによる市民の収入により、人々は雇用者より収入を得るために、頼る必要がより少なくなるのです。より多くの男女が、よき父母の役割りを果たし、家計をうまくきりまわすことが出来るようになるのです。そして彼らが価値をおく良き労働を選択できるようになるのです。ただ高給の故に、従来型の利益追求企業に仕事を求めざるを得ないのでなく、例えば、他のものと一緒に協同組合で働くことなどであります。

## テクノロジー

テクノロジーへのアプローチの変化もまた重要です。人々が地域で、社会的に環境的に持続可能な方法で、彼ら自身とお互いのために働くことを可能にするため、人々に力を与え、それが保全されるテクノロジーが開発され、普及されねばなりません。それは人々によって彼らの家庭と近隣のために、人間のスケールに見合って使用され、燃料と電気のような生活に必需なものを、地域で供給するために使われるテクノロジーであります。

ソフト・エネルギーのテクノロジー、特にエネルギーの効率と保存や、小規模の再生可能なエネルギーの供給に貢献するテクノロジーはとりわけ重要です。その他の例では、食品テクノロジーとして、家庭での料理、小規模な有機農業と園芸のためなどがあります。

その他、全ての設備を維持し、修繕し、調整し、リサイクルするためのテクノロジーが重要です。そうでなければ、捨てられ、他のものと取り代えられてしまうからです。

そしてさらに、情報や通信のテクノロジーで、個人や地域コミュニティのために使用されるファックスやコンピュータといったものであります。

## 教育

21世紀の教育は、子供達、若者や成人が、より自立し、生活を保全するように導かなければなりません。 それは、彼らが必要とする労働、家計と家庭、貨幣、健康、余暇を管理する実践的なスキルを発展させることを意味しています。教育は雇用者のために働くことを主として準備することを止めなければなりません。

そのことは、人々が彼らと子供達が欲する

生活と社会について、自主的に考えること、そして世界の他の人々が考えていることを学ぶことを、促進させねばなりません。

誰もが自由を謳歌し、そのことで他人の自由を縮小させないという責任感を持って、お互いに生活し労働するための、個人そして個人間のスキルを学ばなければなりません。

## 良い労働と悪い労働

私達は将来の労働へのアプローチに横たわっている、哲学的あるいは理論的問題を無視することは出来ません。労働は良いことでしょうか、それとも悪なのでしょうか。

例えば、あるキリスト教の教えによば、労働は神の祝福であり、神への祈りの一形式であるといっています。しかし別の者は、労働は、エデンの園からアダムとイブが追放され、人間に課せられた呪いであるといっています。答えは、労働の種類によって、良くもあり悪くもあるのです。

良い労働とは、私達のため、家族のため、そして社会のための労働です。なぜならそれは価値のある労働であり、そうすることの価値を信じているからです。

自立と保全の社会においては、次のような労働となるでしょう

＊生活に必要なものを提供する

＊私達や彼らに人間のスキルと能力を発展させる

＊資源や神の恵みを保全することを助け、あるいは恐らくそれらを豊かにする

悪い労働とは犯罪を含みますが、それ以上のものです。脅迫されての労働も含みます。私達はそれをしなければならないのです。それは私達のする労働ですが、それ自身に価値があると判断しているわけではなく、生計と生存のために頼らざるを得ない雇用者と他の人々の利益に奉仕するからなのです。悪い労働とは、私達や外の人々の健康を害し、自立と自発的発展をそこね、自然環境に害を与えるものを含みます。

## 結論として

私は提案と、考えと希望をのべ、結論と致します。

提案とは、**良き労働する権利は、責任ある個人として生きる権利**の、重要な部分であるということです。そして、責任ある個人として生きるということは最も**重要な人権の一つ**であるということです。

考えとは、**協同労働の道が、人々の責任ある権利を反映するものである**ということです。

希望とは、21世紀において、人々は世界のあらゆる所で、より一層協同して働くようになるということでありあります。日本協同総合研究所と会員の皆様が、そのようなことを実現させるのに、成功を収めますようお祈り申し上げます。